

1. 研究課題名：

気候変動問題に関する合意可能かつ実効性をもつ  
国際的枠組みに関する研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

亀山 康子 ((独)国立環境研究所)

3. 研究実施期間：平成 24～26 年度

4. 研究の趣旨・概要

気候変動対策を目的とする京都議定書の第一約束期間（2008-2012 年）以降の国際枠組みに関する国際交渉が 2007 年以降続いているが、現在でも合意のめどがたっていない。しかし、2011 年 COP17 で合意されたダーバンプラットフォームでは、2015 年合意達成、2020 年発効を目指して、すべての国が参加する法的枠組みに関する国際交渉を始めることが決まった。日本政府もこの包括枠組み交渉へのインプットに向けた準備が急がれる。本研究では、この新交渉プロセスで合意を目指すべき国際制度を提示することを目的としている。このような国際制度を構築するために、次期国際枠組みに必要な条件について、本研究チームと国内外ステークホルダーとの間での双方向の情報交換を以下の方法で実施する。(a)交渉に直接・間接にかかわる国内外のステークホルダーを対象としたウェブ上でのアンケート調査を実施し、回答者の認識に関する定量的なデータを収集、(b)アンケート調査結果を骨子として、補足的なインタビュー調査を行い、複数の国際制度オプション案を作成、(c)オプション案を合意可能性や実効性の観点から評価する。

5. 研究項目及び実施体制

(1) 気候変動問題における国際的合意可能性および実効性に関する調査研究

((独)国立環境研究所)

(2) 気候変動に関する国際枠組みオプションの国際法的研究

(名古屋大学)

(3) 炭素市場メカニズムの枠組みオプションに関する経済学的研究

(兵庫県立大学)

(4) 気候変動に関する国際交渉過程を踏まえた枠組みオプションに関する研究

((財)地球環境戦略研究機関)

## 6. 研究のイメージ

